



システム開発を変革する AIドリブン開発基盤

2026年2月17日

富士通株式会社
富士通Japan株式会社

Program

- 登壇者による説明

富士通株式会社 AI戦略・ビジネス開発本部 本部長

岡田 英人（おかだ ひでと）



富士通Japan株式会社 特定プロジェクト対策本部 本部長

國分 出（こくぶ いづる）



- 質疑応答

- フォトセッション（メディア向け）

富士通が挑むべき未解決領域

AIがいまだ解けない「複雑な既存システムの理解と自動改修」に挑む

“Takane-Driven Initiative

当社ヘルスケア・行政パッケージ製品を対象に、法制度改正時のシステム改修を
要件定義から結合テストまでAIで一気通貫に自動化する取り組み



ヘルスケア

病院や診療所向けに電子カルテを
中心とした医療情報システム

30 パッケージ



行政

自治体向けに税務、住民情報、福祉、
子育てなど幅広い業務に対応

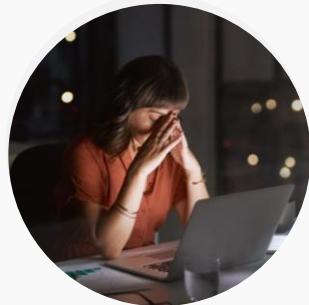
37 パッケージ

なぜ、ヘルスケア・行政なのか

FUJITSU

法制度改正に追随する「変化し続ける巨大システム」の改修は、最難関領域 現場負担を減らし、社会の基盤を止めない、持続可能な運用へ

社会環境の変化への対応 としての法制度改正



- ・診療報酬改定など定期的な改定に加え、社会課題解決に向けた法改正が近年増加
- ・法制度の解釈は職員でも正確に理解し対応することが困難

限られた期間で新制度への対応が必要



- ・短期間での対応で例外の実例を十分に考慮できず事務過誤を生むことがある
- ・法制度改正期間と期末繁忙期が重なり職員の身体的・心理的負荷も大きい

制度の多様化による システムの複雑化



- ・各システムは毎年発生する変更要求により規模が大きくなり、保守作業量が年々増大
- ・67パッケージ、150MSに及ぶ巨大なソフトウェア資産

法制度の段階的な詳細化と 開発に必要な期間の不足



- ・法改正の公表から施行までの期間内に全機能の開発が間に合わない場合も
- ・改正内容の明確化が段階的かつ施行の直前まで続くため手戻りも多い

ドメイン特化モデル「Takane」を核に、法制度の理解・要件定義から、 設計・実装（改修）・結合テストまで、一気通貫の自動化をAIで実現

- 要件定義から結合テストまでを、マルチエージェントで一気通貫にオーケストレーション
- 暗黙知・例外運用を形式知化し、AIが参照可能なGround Truthとして統合
- AIエージェントが影響範囲を特定し、網羅的に設計・実装（改修）

人とAIが対話しつづける開発から、自律的なAIによるノンストップの開発へ



圧倒的成果

FUJITSU

システム改修は、人の作業からAIの作業へ

3
人月



4
時間

約 100 倍の生産性

01 人が読み解くには、 あまりに複雑な法令文書

769 ページ

02 AIエージェントが自動で読み解く



法令文書を細則まで深く理解し
法令の変更内容を把握



変更内容と設計書を照合し
システムの修正箇所を特定



外部仕様レベルの
要件へ自動生成

03 外部仕様レベルの要件を自動生成

- **公開マスタ設定（チェック）**：マスタ内に登録されている「湿布薬」の用語を全て「貼付剤」に変更する。
あわせて、「貼付剤」対象範囲を鎮痛・消炎目的での使用（麻薬・向精神薬、専ら皮膚疾患用を除外）に限定する定義ロジックへ修正。
リフィル制限の判定対象も、「限度が定められている貼付剤」へ変更し、「がんでの鎮痛目的」の場合を除外するロジックを追加する。

- **処方指示ツール（処方指示画面）**：画面上に表示されている「湿布薬」の表記をすべて「貼付剤」に差し替える。

リフィル処方の可否判定ロジックを「貼付剤」定義に則って改修し、「限度が定められている貼付剤」かつ「がんでの鎮痛目的」以外ではリフィル不可とする条件に修正。

- **院外処方箋印刷**：処方箋に出力される医薬品種別の表記を「湿布薬」から「貼付剤」へ変更する。

リファイル回数やリファイル可否欄も「貼付剤」の新基準に合わせて記載仕様・印刷内容を見直す。

AI出力の品質を「有識者レベル」に引き上げる仕組み

“ Multi-layer Quality Control ”

暗黙知・手順・根拠を揃え、曖昧さや抜け漏れは自動でやり直させることで、
設計品質を実務で使えるレベルに引き上げる仕組み



自律設計レイヤ（ReActループ）

観察→思考→行動を反復し、検索・調査→設計具体化→次の参照先特定までを自走

- » 要件定義・設計エージェントの判断精度を底上げ



ガーディアンレイヤ（メタ認知チェック）

品質基準（根拠・一貫性・明確さ）でAIの思考と結論を監査。不足・曖昧・矛盾があれば「やり直し」を指示

- » AIが陥りやすい「それっぽい回答」を止める



知識レイヤ（現場の作法を注入）

命名規則・例外運用・画面ID⇒コード対応など、現場の当たり前をガイド・ルールとして構造化し、検索インデックスと設計文脈に注入

- » 会社固有のシステム開発作法をAIが再現可能にする



情報アクセスレイヤ（大規模ドキュメント・コード理解）

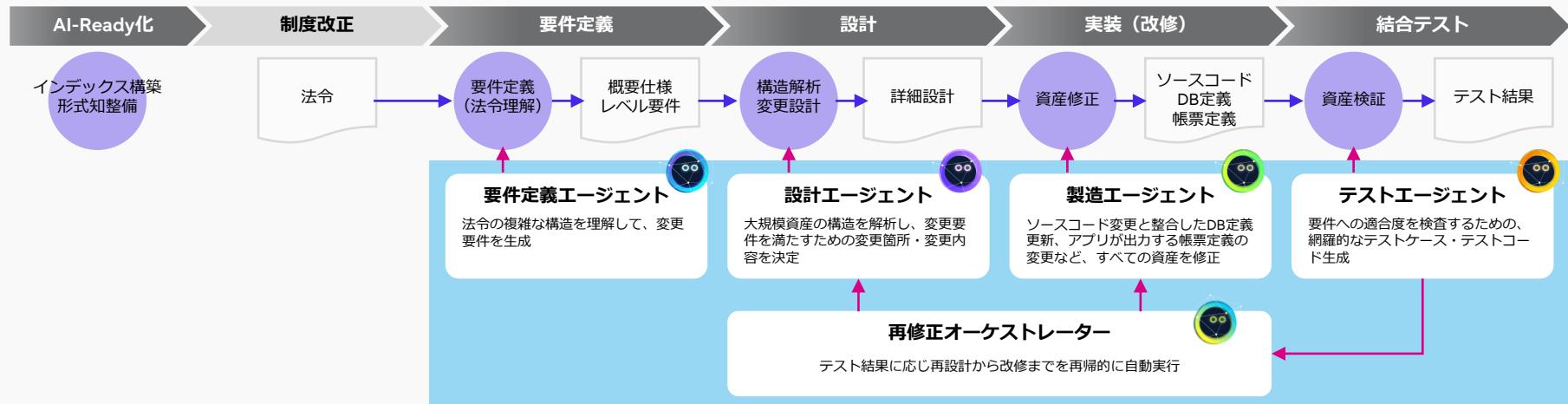
特許出願中

大量ドキュメントや数百万のコードから、AIの思考に必要な部分のみを抽出し、要約・抜粋を行う

- » 精度を落とさず大規模情報を扱えるようにする

AIエージェントによる止まらない開発

法改正の内容を入力したら結合テスト完了まで、人の介入なく、AIエージェントが「人間のSE品質水準」に届くまでやり直しを重ね、開発プロセスを走りきる



【ドメイン知識】

既存コード・設計情報・業務知識・開発手順・命名規約・設計作法・テスト観点・etc...

【AI/DevSecOps基盤】

Takane / LLM

AI検索サービス

ソースリポジトリ

CI/CDパイプライン

ASTツール

行政・医療現場が評価した価値：業務を止めない迅速性と正確性



法改正・制度改定へ
前倒しで対応できる
十分な準備時間

職員・現場の負担
軽減と生産性の向上

住民・患者に対する
社会的価値の向上

今回の富士通の発表は、診療報酬の複雑化と請求作業負荷の増大という、**私たち医療機関が長年抱えてきた課題に対し、実務に即した確かなアプローチ**がなされていると感じました。

特に、法令文書の理解や影響範囲の抽出をAIが行いながらも、解釈が分かれうる箇所を明示して人の判断を補完する仕組みは、**現場運用を理解した上で設計されている点で大いに評価できます。**

また、日本語に特化したLLMと安全性への配慮は、医療分野でのAI活用に不可欠な要素です。診療報酬請求だけでなく、病床管理や実績要件の把握など、周辺領域との連動も期待でき、**将来的に病院全体の業務効率化に寄与するポテンシャルを強く感じました。**

医療現場の負担軽減に向け、**導入を前向きに検討すべき有望な取り組み**だと考えます。

島根県立中央病院

今後の展望

FUJITSU

67パッケージ全体へ適用を拡大し、圧倒的な生産性でサービスを高速に進化

Time to Marketを劇的に削減し、売上・シェアを拡大

蓄積されたドメインナレッジは、お客様のより高度な経営課題の解決をもたらす

ヘルスケア



HOPE シリーズ

HOPE	医事会計	WINCARE Cloud
住民登録	国民年金	
税務情報		
	HealthAssist	
	検査管理HOPE	
	感染管理(ハイブリッド)	
	生体検査(ハイブリッド)	
	BLAD(ハイブリッド)	
	統合部門機能	
	統合部門機能	
PocketChart		
看護(ハイブリッド)		
歯科再診予約		
歯科(ハイブリッド)		
麻酔記録(ハイブリッド)		
重症病棟記録システム		
看護連携(ハイブリッド)		
看護(ハイブリッド)		
LifeMark-SX		
EGMAIN-GX		
LifeMark-TX		
LifeMark-SX Cloud		
LifeMark-Type G		
Cloud Chart II		
Cloud Chart		
LifeMark-MX		
LifeMark-HX Cloud		

電子カルテ

カルテ・オプション

部門管理

介護

10

行政



MICJET シリーズ

戸籍	証明書交付	MCWEL	IPKNOWLEDGE	SuperCALS
住民登録	医療費助成	シリーズ	シリーズ	シリーズ
税務情報	児童手当	障がい者自立支援	後期高齢者医療	事業執行管理
	スマート窓口	特別自動扶養手当	介護保険	電子調達
	子供・子育て支援	児童扶養手当	高齢者福祉	入札参加資格申請
		障がい者自立支援	独立行政法人会計	設計積算
		特別自動扶養手当	公会計企業会計	事業執行管理
		児童扶養手当	後期高齢者医療	電子調達
		障がい者自立支援	介護保険	入札参加資格申請
		特別自動扶養手当	高齢者福祉	設計積算
		児童扶養手当	独立行政法人会計	事業執行管理
		障がい者自立支援	公会計企業会計	電子調達
		特別自動扶養手当	後期高齢者医療	入札参加資格申請
		児童扶養手当	介護保険	設計積算
		障がい者自立支援	高齢者福祉	事業執行管理

住民情報

内部情報

公共事業

この実践を、全社へ
そして、お客様の現場へ

Takane-Driven Initiativeからその先へ
すべてのシステム開発へ展開

展開ターゲットは「変化しつづけるシステム」

改修に多大なコストやリソースを恒常に消費し、人手依存がボトルネックとなっているシステム
変更スピードが競争力を左右し、Time to Market改善がそのままビジネス価値に直結するシステム

継続改修が恒常化

法対応、商品・料金ロジック
更新、外部サービス連携

変更頻度が高く リリースが高速

月次リリース、アジャイルが
常態

長年の改修で巨大化・ 複雑化した資産

依存関係・独自仕様・
暗黙知が多い

監査・説明責任の 要求が高い

変更理由の
トレーサビリティが必要



金融



通信



小売



物流



製造

AI-Driven Software Development Platformの概要



富士通の研究所技術と業務知見を核に、複数のAIエージェントを協調させ、要件定義から結合テストまでを一気通貫に自動化するAI ドリブン開発基盤



圧倒的な生産性と、エンジニアの働き方改革



“AI-Driven Software Development Platformは
「支援するAI」ではなく「自ら実行するAI」

最大100倍の生産性

一般的な生成AIツール
タスクの自動化

対話型の開発支援

人が操作し続ける前提

人が動いている間だけ、開発が進む

作業は断続的に進行

AI-Driven Software Development Platform
プロセスの革新

完全自律型の開発実行

入力後は人の介入なし

人が離れても、目標達成まで
開発が進み続ける

24時間、開発が進み続ける

AI-Ready Engineeringとは

FUJITSU

AIが既存システムを正しく理解し、信頼性ある自動化を実行できるよう
資産・知識・品質を整える工程。この「仕込み」の成熟度が自動化の精度を決める

AI-Ready 自動化の成功率を決める「仕込み」		Fitting AIをシステムに正しくはめ込む
資産理解 <i>Asset Understanding</i> <ul style="list-style-type: none">既存システム資産の構造化と検索インデックス化暗黙知の形式知化（業務知識・開発手順・資産依存関係など）	開発ルール・設計構造の標準化 <i>Engineering Conventions</i> <ul style="list-style-type: none">命名規約・設計作法・テスト観点の整備修正しやすい構造への再編	AI × 既存システムの適合調整 <i>Fitting</i> <ul style="list-style-type: none">正解データとAI改修結果のギャップを評価し、コンテキストやプロンプトをチューニング（形式知の見直し・検索インデックスの充実化）TakaneのチューニングでAIの判断品質を最適化
正解データの準備 <i>Ground Truth</i> <ul style="list-style-type: none">過去改修の正解データ化AIの結果を正解データと比較・評価する仕組み	実行環境の整備 <i>Execution Readiness</i> <ul style="list-style-type: none">自動ビルド・自動テスト・自動配備の仕組み（CI/CD）AIが出力した成果物をCI/CD基盤と連携	

AI-Ready Engineering - 富士通の強み -

FUJITSU

人の実践知と、AIの実行知を「結合」できる力

Human knowledge

Machine Knowledge

富士通の現場エンジニアが積み上げてきた実践知

大規模・複雑な既存システムを読み解く力

- ・行政・金融・医療など、複雑な領域を40年以上担当
- ・数万ファイル規模のコード資産の構造・履歴・運用を理解
- ・AIの混乱を招く「表現のゆらぎ」を見抜ける現場力

暗黙知・例外運用の通訳力

- ・設計書に書かれていない業界慣行・例外処理・運用判断を理解
- ・「仕様書より現場が正しい」世界で、仕様ギャップを埋め続けてきた経験

標準化・品質管理の蓄積

- ・命名規約・開発標準・テスト観点の長年の蓄積
- ・お客様固有の作法を守りながら改修するノウハウ

AIが「人間品質」で動くための仕組み

暗黙知の形式知化と注入

- ・設計書にない業務ルール・例外処理・判断の意図を構造化
- ・要件・設計・コードをつなぐ見えない橋をAIが辿れる形に変換
- ・Human-onlyだった判断領域を、AIが扱える入力へ

人間知を再現できる実行基盤

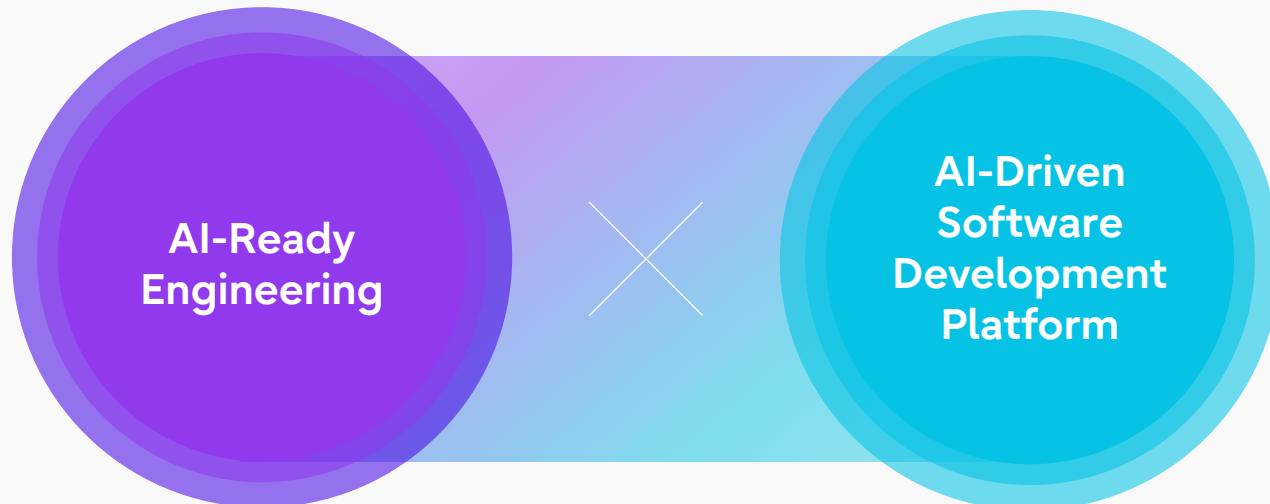
- ・設計やコーディング、テストの結果を段階的に評価し、網羅性・具体性を自律的に高めるエージェント群
- ・日本語理解・ミッションクリティカル領域に長けたTakaneを中心としたAI実行構造

改修プロセス全体のオーケストレーション

- ・要件定義・設計・実装・結合テストをつなぎ、完了まで走り続ける

“AI-Ready Engineering × AI ドリブン開発基盤

一気通貫のシステム開発自動化を実現する両輪



AIが迷わず判断できる状態をつくる
—資産理解・暗黙知・品質基準—

AIによる自律的な開発実行
—要件定義～結合テストの自動化—

システム開発の未来を分ける、決定的なターニングポイント



- ・生成AI活用による生産性向上が進み価格競争が加速
- ・生成AIの民主化により、顧客主導の内製化が拡大
- ・単純な開発・改修は、付加価値を生みにくい領域
- ・技術選定・ツール論が先行し、差別化が困難



- ・富士通の新たな提供価値は、**圧倒的なスピード (Time to Market)** と継続的な適応力
- ・**AI-Ready Engineering × AI ドリブン開発基盤**
- ・AIと人が役割分担し、**段階的にAI主導へ進化するサービスモデル**



AI-Driven Software Development Platform 2026年度よりすべてのシステム開発へ

お客様・パートナー様からの期待の声

(五十音順) 

“

多くの国内企業が直面するレガシー資産の維持・保守に対する現実的なパスの1つとなる

IDC Japan株式会社

“

単なる開発効率化にとどまらず、企業が長年培ってきた業務知識や設計思想を、次世代へと継承・進化させていくための重要な挑戦である

川崎重工業株式会社

“

特筆すべきは、AIが自律的に人間知を学習し、要件定義の精度を飛躍的に高める点にある



近鉄情報システム株式会社

“

この仕組みは従来のSIビジネス形態を劇的に変える可能性もあり、今後の動向に注目

株式会社さくらケーシーエス

“

毎年複雑な制度変更が発生する業務パッケージを対象とする点に、大きな可能性を感じている



株式会社オプティマ

“

AI自らが品質を監査し、自律的に工程をやり直す仕組みは、システム開発の信頼性を劇的に高めるものと確信

キユーピーデジタルイノベーション株式会社

“

要件定義からテストまでをワンストップで完全自動化するこの取り組みは、業界に革新をもたらす画期的なもの

Google Cloud

お客様・パートナー様からの期待の声

(五十音順) 

“

当社は2024年より、**富士通と本領域において一部で取り組みを進めてきた**。これらの取り組みを通じて、近い将来、開発プロセス全体が一気通貫で自動化されると確信



“

この挑戦が**日本のシステム開発ビジネスの進化を牽引し、世界に通用する変革モデルへと発展すること**を大いに期待



“

知見を継承したAIと現場の人々が共創することで、新たな価値が創出され、**システム開発業界ひいては産業全体の革新を支える礎**となることを期待

大手製造業IT子会社

“

システム運用の高度化や効率化に向けた大きな一步であり、**システム開発の在り方そのものを変えるポテンシャル**がある



“

当社のビジョンとも共通する点が多く、**業界全体の未来を切り拓く重要な取り組み**

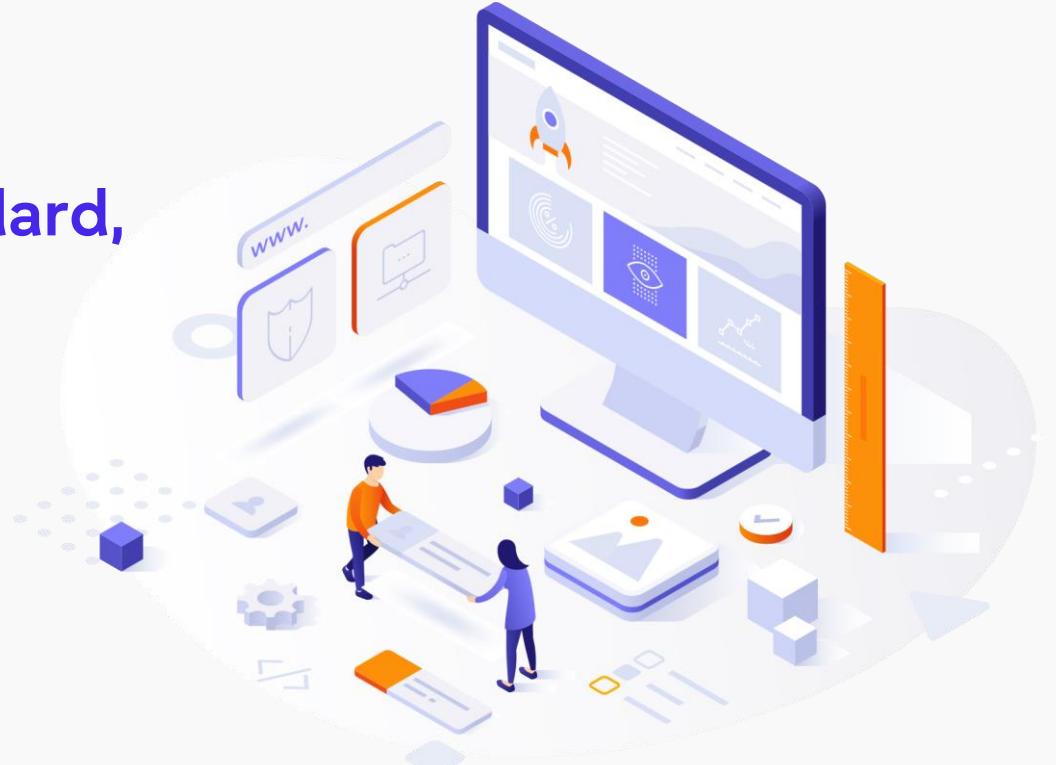
日本アイ・ビー・エム株式会社

“

要件定義から改修までをワンストップで自律実行するアプローチは、**日本企業が抱えるレガシーの本質的な課題に対する有効な解**になり得る

Panasonic

“Building the next standard,
together
**Customers. Partners.
Developers.**



富士通の事業変革がもたらす価値



次の成長モデルを、共につくる

お客様



お客様の事業変革の加速

- ・圧倒的なTime to Marketの短縮
- ・市場環境・制度変更への高速・確実な対応
- ・データとAIを活用した業務・経営判断の高度化
- ・富士通は作るベンダーから、お客様の変革を導くパートナーへ進化



エンジニアの競争力の再定義

- ・制度改正対応など、高負荷な業務からの解放
- ・お客様側の受入検査負担も大幅に軽減
- ・エンジニアは、生まれた時間を次の価値創出へ（AI-Ready Engineering／FDE*などの専門人材へ進化）

*Forward Deployed Engineer (FDE) :
課題の特定とデータとAIによる実装を一体で担うエンジニア

パートナー



エコシステムの進化

- ・富士通の事業変革にあわせ、新たな役割と成長機会をパートナーと共に
- ・人月モデルに加え、AI-Ready Engineering・FDE型の価値提供へと領域を拡張
- ・AI-Driven Software Development Platformを起点に、顧客・パートナーとともにスケールするエコシステムへ

Adaptiveなシステム開発の未来へ



私たちが目指すのは「開発の効率化」だけではない
変化しつづける業務と社会に、システムが追随できる仕組みそのもの



大規模・既存システムの要件定義～
結合テストをAI主導で自動化

Automation



AI-Ready Engineering × AIドリブ
ン開発基盤で、価値ベースの開発モ
デルへ転換



Modernization



システムは「作って終わり」ではな
く、変化に適応し続ける存在へ



Transformation

AI時代の事業変革、始動。

AI-Driven Software Development Platform



Thank you

